

平成 29 年 12 月 14 日

第 3 学年保護者様

明石市立大蔵中学校長

明石市立大蔵中学校学習係

## 「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」の結果について

平素は、本校の教育活動に対しまして、ご支援とご協力いただき心より感謝申し上げます。

さて、4月に中学3年生と小学6年生対象に実施されました「全国学力・学習状況調査」の個人票につきましては、9月29日にお子さまを通じて返却させていただきました。あくまでもお子さまの学力の一部として、これまでの学習の成果や取り組みについて、改めて振り返る機会にさせていただいております。今回は、本校全体の結果の概要を報告させていただきます。

なお、この調査は、学力の向上のみならず、生徒の意欲、学習方法、生活面なども全体的な特徴や課題を明らかにし、各学校における学習指導の充実や改善に役立てることを目的として実施されたものです。本校におきましても、本調査の結果を十分に分析し、子どもたちの学力をさらに伸ばしていくために活用していきたいと考えております。

### 1. 全国及び兵庫県の調査結果の概要（平均正答率）

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
全国	77	72	65	48
兵庫県	78	72	68	50
明石市	80	74	69	50

※ 主として「基礎・知識」に関する問題が A、「思考・活用」に関する問題が B。

全国的な結果の分析は、「国立教育政策研究所」より、新聞、web 等で報告されています。

その一部を紹介します。

<国語>

・漢字の読みや、目的に応じて資料を効果的に活用して話すことについては、相当数の生徒ができています。

・事象や行為などを表す多様な語句について理解することに課題がある。

・伝えたい事実や事柄について、根拠として取り上げる内容が適切かどうかを吟味する点に、依然として課題がある。

<数学>

・ある数量を正の数と負の数で表すことの理解、簡単な一元一次方程式を解くことは、相当数の生徒ができています。

・数学 A の一部の問題において、改善の傾向がみられる。

・扇形の弧の長さを求めること、関数の意味や範囲の意味の理解に課題がある。また、各種事象を数学的に証明することにも課題がある。

<生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果について>

平成 29 年度新規項目「部活動について」

・平成 29 年度において、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たり、2 時間以上、3 時間より少ない時間、部活動をしている生徒の割合は約 4 割と最も高く、1 時間以上、2 時間より少ない時間、部活動をしている生徒の割合が約 3 割とその次に高い状況にある。

・平成 29 年度において、部活動の時間別に平均正答率を比較してみると、1 日当たり、1 時間以上、2 時間より少ない時間、部活動をしている生徒の平均正答率が最も高い状況にある。

### 2. 本校の調査結果の概要

#### (1) 教科に関する結果について

「国語」「数学」の調査では、「知識」「活用」の両面において、全国平均を上回り、基礎学力の定着が進んでいると言える。特に数学の正答率が高く、「知識」は全国平均を大きく上回り、大変優秀である。

・国語は「話す・聞く」「書く」「読む」「言語についての知識・理解」のすべての観点において、全国平均を上回っているが、「書く」の観点は全国平均に近い数字である。事象や行為などを表す多様な語句について理解する出題の正答率が高かった。

・数学は「数学的な見方・考え方」「数学的な技能」は全ての観点において、全国平均を上回っており、特に「数と式」の領域では優れている。しかし「活用」における「数量や図形などについての知識・理解」は全国平均を下回っている。求め方や条件、意味を理解する出題の正答率が高かった。

#### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査結果について

##### ①家庭生活・学校生活が安定している

・「朝食を毎日食べていますか」に「している」「どちらかといえばしている」の割合が多い(96%)。

・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に「している」「どちらかといえばしている」の回答が多い（全国よりは低い）。

・「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか」に「している」で 53%、「どちらかと言えばしている」と合わせると 82%と、全国平均より高い。

・「普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」に「1 時間以上」の割合が全国で 59%、本校では 47%と低くなっている。

・「携帯電話やスマートフォンを持っていない」割合は全国が 20%に対し、本校では 28%と持っていない割合が高くなっている。

・「学校に行くのが楽しい」に「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が全国で 81%、本校は 91%と高くなっている。

##### ②自己肯定感が高い

・「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が全国で 71%、本校では 78%と高くなっている。

### ③学校以外での学習

- ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」では「している」「どちらかといえば、している」の割合が全国 52%、本校では 56%。「家で復習をする」は全国 51%、本校 57%と上回っている。
- ・「学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか」では全国平均が 62%、本校では 72%。

### ④社会への関心は高いが地域への関わりが薄い

- ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答したのが 60%に対し、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が全国 42%に対し本校は 26%と、関心はあるが積極的に関わる機会が少ない。

学校には詳細なデータが届いていますので、今後の学習指導に活用してまいります。

## 3. 参考

平成28年度「全国学力・学習状況調査」明石市全体におけるクロス集計結果について

※一部抜粋

#### (1) 生活習慣に関すること

- ・身体の成長が著しい時期であるため、朝食を毎日摂ることが平均正答率に大きく影響することが分かる。
- ・起床や就寝の時刻が決まっている生徒は、それらの時刻が不安定な児童生徒に比べて、平均正答率に約5～15%程度の差が出ている。規則正しい生活が平均正答率に大きな影響を及ぼすことが分かる。

#### (2) メディアに関すること

- ・「テレビやビデオ・DVDを全く見たり聞いたりしない」生徒の正答率はやや低いですが、概ねテレビ等を見たり聞いたりする時間が少ない生徒の正答率が高い。
- ・テレビゲームをする時間が長い生徒は、時間が少なかったり全くしなかったりする生徒に比べて、正答率は低い。学習時間を十分に確保できていないことや問題を粘り強く解こうとする意欲や集中力が落ちているのではないかとと思われる。
- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットをする時間が長い生徒は、時間が少なかったり持っていなかったりする児童生徒に比べて、正答率は低い。学習時間を十分に確保できていないことや、問題を粘り強く解こうとする意欲や集中力が落ちているのではないかとと思われる。

#### (3) 学習習慣に関すること

- ・学校の授業時間以外に勉強時間を確保できている児童生徒は、確保できていない児童生徒に比べて正答率が高い。

#### (4) 読書に関すること

- ・学校の授業時間以外に30分～1時間程度読書をする生徒の正答率が、他の項目に比べやや高い。なお、10分よりも少ない読書時間の生徒の正答率の高さは、朝の読書の取組の成果が考えられる。
- ・読書が好きな生徒と好まない生徒との差が、正答率に表れている。特に中学校では、活字にふれることに慣れている生徒は、読解力を問われるB問題にも対応できていることが分かる。

#### (5) 家庭生活に関すること

- ・「家の人（兄弟姉妹除く）と学校の出来事について話をしていますか」という質問に対して、家族とのコミュニケーションを多くとっている生徒ほど正答率が高い。
- ・家で、自分で計画を立てて学習を進めることができる生徒は、いずれの問題においても正答率が高い。
- ・家で、宿題をしている生徒は、正答率が高い。特に中学校では、宿題をしてない生徒よりも正答率が極めて高い。学習習慣ならびに学習内容を定着させるには、宿題をすることが大切であることがわかる。
- ・家で、予習をしている生徒は正答率が高い。
- ・家で、復習をしている生徒の正答率は高い。家庭学習とともに復習の積み重ねが、学習習慣並びに学習内容の定着に大きく関わっていることがわかる。

#### (6) その他

- ・友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意な生徒の正答率が高い。
- ・国語の授業で文章を読むとき、段落やまとまりごとに理解しながら読む生徒の正答率は高い。
- ・数学の授業で公式やきまりの理由を理解しようとする生徒の正答率は高い。